

G126		森林動物学	
英名科目名	Ecology and conservation of forest wildlife		
大学名	京都大学		
連絡先	農学部学部教務掛 TEL:075-753-6436 FAX:075-753-6005		
担当教員	農学研究科 准教授 高柳 敦		
開講期間	2021年10月07日(木)～2022年02月03日(木) 1講時 08時45分～10時15分(毎週木曜日) 休講2022/01/20(木)		
開講形態	後期・秋学期	開講曜日・講時	木曜日 1講時
単位数	2	履修年次	2回生以上
会場	吉田キャンパス		
授業定員			
単位互換生定員	3	京カレッジ生定員	
試験・評価方法	<p>期末試験と1回のレポート提出の成績で評価する。試験とレポートの評価の比率は7対3～6対4である。</p> <p>評価に当たっては出席状況も考慮する。講義では、毎回、簡単な質問を書いた出席票を渡し、それに意見を書いて提出してもらって、出席を確認する。評価方法については最初の講義で説明する。</p>		
超過時の選考方法			
受講料			
別途負担費用			
その他特記事項	京都大学吉田キャンパス・北部構内・農学部総合館・W322室		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
<p>日本において野生動物の多くは森林に生息しており、森林が現代社会において重要な資源であるのと同様、野生動物も社会の中でその重要性を増している。野生動物の保全は、人間社会を保ちつつ種の絶滅を防いで高い生物多様性を保つことをめざしている。そのうち、野生動物の健全な個体群を保ちながら、野生動物による被害を極力小さくすることを目的とする分野として野生動物保護管理がある。高い生物多様性を保つことと高い生活水準の追求には相反的側面があり、いかにバランスよく両者を実現するかが重要な課題である。本講義では、日本における大型哺乳類による被害の問題を主な題材とし、野生動物保護管理を中心とした野生動物の保全問題の背景、解決のための科学的なアプローチについて解説する。野生動物の生態や森林との関係とともに生態と被害の発生プロセスについての自然科学的側面を理解し、一方で被害問題の背景にある社会科学的な要因についても学び、問題解決へのアプローチを探る。講義では、野生動物の生態に関係する基本的事項と保全の概念など理念的側面、保全生物学や動物生態学を中心とした自然科学的側面、森林の保全や生物資源の管理に関する社会情勢や法・制度などの社会科学的側面について触れる。</p> <p>到達目標は次の通りである</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野生動物の生態について、生息環境との関係を含め理解する ・野生動物を保全するには、自然科学的理解と社会や制度に関する理解の双方が不可欠であることを理解する ・野生動物の保全に関して、自ら見いだしたトピックについて、内容を整理し、自分の意見をまとめてレポートとする技能を磨く 			
講義スケジュール			
<p>第1講 森林動物学・野生動物保全学への導入 第2～5講 生物多様性の保全に関する講義 第6～14講 森林に生息する動物の生態と被害問題・保全問題に関する講義 第15講 被害管理など野生動物保護管理の社会的側面に関する講義</p> <p>以上は進行の目安であり、進捗状況などによって変更する。</p> <p>なお、フィードバックは、学生からの質問に対して講義の終わりまたは次回講義の初めに回答する形式で行う。</p>			
教科書	使用しない		

参考書	授業中に紹介する 毎回、講義の時に資料を配付する。
-----	------------------------------